

第58回定時株主総会 追加説明

1. 中期的展望における経営方針について

当社は、次の三つの基本方針を経営の三本柱としております。

その第一は、「ベアリングとベアリング関連製品事業の一層の強化拡充をはかる」ことであります。

第二は、「精密小型モーター事業を更に拡充し、ベアリング及びベアリング関連製品事業と並ぶ柱に育て上げる」ことであります。

そして第三は、「全ての製品について、高付加価値製品の比率を引き上げると同時に、製品の幅を広げ、より広範囲な市場に対応できるようにする」ことであります。

当社の最大の特徴であり、強さの源泉であります『超精密機械加工技術』、『大量生産技術』、『垂直統合生産方式』及び『製品開発力』を徹底的に強化することにより、経営の三本柱の実現を計っております。特にミニチュア・小径ボールベアリングにつきましては、『月産1億8,000万個体制の構築』が着実に進展し、2004年3月には社内使用を含め、1億7,000万個を超える生産、販売を達成いたしました。月1億8,000万個の販売目標は、計画を半年、前倒して、2004年10月の達成を目指しております。また、優れた性能・大量生産性・コスト競争力を有する2種類の新型流体動圧軸受ユニットの開発に成功致しました。2004年末に量産開始の予定であります。これら2種類の新型流体動圧軸受ユニットは、当面当社製のハードディスクドライブ用スピンドルモーターに使用し、将来はスタンダード化して広く外部に販売をしていく予定であります。

2. タイにおける生産活動について

1982年に、バンコック市の北方、75kmの所にあるアユタヤ市で、生産活動を開始して以来、22年が経過いたしました。

現在タイは、4地域に工場群が展開し、従業員約3万人、ミネベア・グループの総生産高の約60%を産出する、ミネベア・グループ最大の生産拠点であります。

現在、キーボード生産については、中国上海市への移管を計っており、2005年3月末までに完了する見込みであります。一方、「流体軸受搭載型HDD用スピンドルモーター」、「ミニチュア・小径ボールベアリング」、「ピボットアッセンブリー」、「液晶用ライティングデバイス」等の生産拡大を行うなど、当社の主力生産基地としての拡充が続いております。

3. 上海市における生産活動について

当社は、1994年に、中国の上海市郊外にミネベア・グループ初の中国現地法人『上海ミネベア精密機電有限公司』を設立し、「ミニチュア・小径ボールベアリング」と「ファンモーター」の生産を開始いたしました。

その後、それら製品の生産は順調に引き上り、現在の生産規模は、「ミニチュア・小径ボールベアリング」が、月産約2,600万個、「ファンモーター」が、月産約700万台であります。それぞれ月産4,000万個、1,000万台に引き上げる計画が進行中であります。

西岑工場に於いては、「ファンモーター」の他、「歪みゲージ」や「ロードセル」等の計測機器の生産を行っております。

また、2002年に、シンガポールのハンシングループと、当社60%ハンシングループ40%の出資比率で合弁会社『シュンディン シンガポール株式会社』を設立し、同時にその合弁会社の100%子会社として、上海市にキーボード生産の為の新会社『上海シュンディン テクノロジー有限公司』を設立し、2003年8月に生産を開始いたしました。現在、タイでのキーボードの生産を同社へ移管中ではありますが、2005年3月末までに完了する予定であります。

ミネベア・グループの総生産額に占める中国の比率は、現在約 13%であり、中国は、タイに次ぐ、ミネベア・グループ第 2 の生産基地であります。

なお、上海ミネベアと上海シュンディンテクノロジーの両社を合わせた中国オペレーションは、2004 年 3 月末現在で、資本金額 287 億円、機械設備・工場建屋など固定資産総投資額 555 億円、従業員数約 6,000 人、当期の売上高 269 億円であります。

今後、中国市場、及び 世界市場の動向を良く見極めながら、時宜を逸する事なく、中国工場の生産品目の増加、生産規模の拡大を計って参ります。

4. ミネベア・松下モータ株式会社について

「ミネベア・松下モータ株式会社」は、2004 年 4 月 1 日に、当社と松下電器産業株式会社の情報モーター四商品事業を統合して、両社の合併会社として発足いたしました。出資比率は、当社が 60%、松下電器産業株式会社が 40%であります。

情報モーター市場は、日本メーカーによる寡占化が進む一方、中国メーカーの参入などにより、競争が激化しておりますが、一方では、プラズマテレビ、液晶テレビなどのデジタル家電、パソコン、携帯電話などの情報端末、また、ゲーム機などの新規分野で需要拡大が期待される成長市場であります。

ミネベア・松下モータ株式会社は、当社の超精密機械加工技術、大量生産技術、及びコスト競争力と、松下電器産業株式会社の最先端商品開発力を融合させて、競合他社に先行した優位性のある高付加価値商品の開発、開発スピードの向上、製造力、及び顧客密着営業体制の強化を図り、統合した情報モーター分野で世界一の地位を目指して参ります。

5. 結損益計算書について

「招集ご通知」の 22 頁、23 頁にご参考として「連結貸借対照表」及び「連結損益計算書」を添付してございます。このうち「連結損益計算書」について、その概要をご説明申し上げます。

当社製品の主要顧客であるパソコン、パソコン周辺機器、オフィスオートメーション等の情報通信機器関連業界よりの需要は、世界経済が回復するなか順調に拡大しましたが、価格競争はますます激化し、厳しい市場環境が続きました。

このような環境の下で、当社は販売、生産活動の一層の効率改善、品質の向上 及び 高付加価値製品の開発に努めた結果、ボールベアリングを始めとしたほとんどの主要製品において販売数量が大きく増加し、マーケットシェアの拡大が進みました。

しかし、円高による為替の影響により売上高が前期に比べ約 89 億円 減少した他、販売価格低下の影響や、事業撤退に伴う売上高の減少の影響等もあり、当期の「連結売上高」は、2,685 億 7,400 万円と、前期比 36 億 2,800 万円の減少となりました。

「営業利益」も 181 億 400 万円と、前期比 12 億 4,700 万円減少いたしました。「経常利益」は、支払利息が大きく減少したため 138 億円と、前期比 3 億 8,000 万円の増加となりました。

また、「法人税等」では、法人税、住民税、及び事業税として 44 億 1,100 万円計上 したのに加えて、税効果会計により「法人税等調整額」に 27 億 9,800 万円を計上いたしました。

以上の結果、「当期純利益」は、60 億 1,900 万円となり前期と比べ 84 億 5,400 百万円の増加となりました。

以上 ご説明申し上げます。